

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2795600010
法人名	有限会社ディスカバリー
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所ホリ
所在地	泉南市中小路2丁目1860番地 (電話) 072-485-1710

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年7月19日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 7月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	18人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 17.0人

(2) 建物概要

建物構造	耐火被覆鉄筋ALC版張 造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1000 / 1日 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要 (平成19年7月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	15名	要介護2	9名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 80歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖心会 堀病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に定着している母体法人の病院と介護老人保健施設に併設された3ユニットのグループホームで事業の多機能性を活かし、地域に密着した事業運営を目指しています。理念として「個人の尊重」「家庭的な雰囲気作り」「認知症進行の予防」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを実践し、職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気で接しています。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。日頃の母体病院の医師と看護師のサポートが利用者と家族に安心感を与えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4) 昨年運営法人が代わっており、前回の評価結果と厳密には比較できませんが、昨年の再スタート以降、治療をする医療現場の良い点と生活を楽しむ介護現場の良い点双方を学び事業運営に生かす努力をしています。前回指摘の改善課題への取り組みが進んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価は管理者と一部の職員のみで行われました。運営者、管理者は自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善方策の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、行政や地域包括支援センターの担当者、民生委員、地域の小学校の教頭先生、家族の参加のもと運営方針や生活ぶり、課題について報告して意見を求め、地域との交流について協力を要請しています。今後地域住民代表、ボランティア、知的障害者の作業所代表の参加も予定されています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族の訪問の機会も多く、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えていきます。毎日の利用者の心身の状態についても必要の都度こまめに電話で家族へ報告し、毎月定期的に「グループホーム通信」を送付して、生活状況、職員の異動について報告しています。預かり金の金銭管理については法人の事務部門で収支と残高管理をし、定期的にコピーを家族に送付して報告しています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、ご意見箱入れを備え付け申し入れのあった苦情についても対応の記録があり運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域の人が一般公開している藤の花観賞や寺院の紫陽花観賞に利用者が参加したり、小学生の体験学習をホームに受け入れ、この関係から教頭先生が運営推進会議に参加するようになったり、知的障害者の作業所から太鼓演奏に来てもらい、その縁でその代表者が運営推進会議に参加してもらおう約束ができていたりしています。大手スーパーのイベントにホームとして参加する企画も行政機関の協力で進めています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の病院と介護老人保健施設に併設されたグループホームは事業の多機能性を活かし地域に密着した事業運営を目指しています。理念として「個人の尊重」「家庭的な雰囲気作り」「認知症進行の予防」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを実践しています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示しています。月例の全体会議で管理者と職員は理念を共有するべく話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の人が一般公開している藤の花観賞や寺院の紫陽花観賞に利用者が参加したり、小学生の体験学習をホームに受け入れこの関係から教頭先生が運営推進会議に参加するようになったり、知的障害者の作業所から太鼓演奏に来てもらい、その縁で作業所の代表者が運営推進会議に参加してもらう約束ができています。大手スーパーのイベントにホームとして参加する企画も行政の協力で進めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の指摘事項について改善の取り組みを行っています。しかし自己評価については、管理者と一部の職員のみで行われ、職員全員の研修による取り組みは不十分で会議録も残されていません。	○	運営者、管理者、職員は自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善方策の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を行政と協議し策定しています。会議は2ヶ月毎に開催し記録を残しています。行政、地域包括支援センターの担当者、民生委員、地域の小学校の教頭先生、利用者家族に参加してもらい運営方針や生活ぶり、課題について報告して意見を求め、地域との交流について協力を要請しています。今後地域住民代表、ボランティア、知的障害者の作業所代表の参加も予定されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは交流があり、ホーム職員が市主催の懇談会に参加したり、市担当者が体験のためホームを巡回したりしています。今後、市の主導で市域のグループホームの交流会が計画されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問する機会は多く、面会時には玄関で職員が必ず対応し、見落としのないよう連絡事項が記入された「伝言帳」を見ながら利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。毎日の利用者の心身の状態についても必要の都度こまめに電話で家族への報告をしています。また毎月定期的に「グループホーム通信」を送付し、行事や生活状況、職員の異動について報告しています。預かり金の金銭管理については法人の事務部門で収支と残高管理をし、定期的にコピーを家族に送付して報告していますが、家族の確認の日付と署名を貰っていません。	○	預り金の収支と残高について家族が確認をした日付と署名押印が求められません。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、ご意見箱入れを備え付け、申し入れのあった苦情についても対応の記録があり、運営に反映させています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間、個人的なやむを得ない事情で4名の退職者がありました。ただちに新人の採用で対応し、一時期利用者の不安や動揺はありましたが、良き人材を得たこともあって全職員の努力で比較的短期間で問題の解消をはかることができました。職員が異動することの利用者への影響の大きさを理解し、今後異動を必要最小限に抑える努力が望まれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を受入れ大阪認知症高齢者グループホーム協議会での交流・研修会や法人内の研修会に参加できるよう積極的な研修体制をとっています。「認知症」や「感染症」、「緊急対応法」のテーマについても学んでいます。職員を段階的に育成するために、研修テーマや受講者について予め計画を策定した上で研修を実施することが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し会員相互の交流・研修会に参加しサービスの質の向上を目指し研鑽に努めています。地域の同業者との交流についても、現在市の担当者が交流・研修会を実施するべく計画・調整中で、近々実現する見込みとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人事業の多機能性を活かし、居宅介護支援やデイサービス、老人保健施設、病院の連携のもとで入居前の家庭訪問やホームの見学を通じて馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者が不安を持ち孤立することなく日々の生活を送れるよう、それぞれが得意なことや仕事を持ち、ホーム内で役割を持って生き生きと活躍できるよう支援しています。ホームで使う雑巾を縫ったり、朝早くから共同洗面所の掃除をしたり、率先して食事の下ごしらえや食器洗いをしたり、新聞や週刊誌の記事を話題になど、利用者が生き生きと生活を楽しんでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援しています。仏壇の欲しい利用者には居室に備え付けのクローゼットを利用してもらい、ベッドを好まない利用者には畳をひき、床に座りたい利用者には小さい畳をベッドの横にひき、居室に自分用の冷蔵庫を置くこと等利用者の要望に応える支援をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の暮らしの状況や心身の状況についてアセスメントを行い、医師や看護師、入居前のケアマネージャーの意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、家族の同意を得ています。 利用者の生活や活動の目標を達成するための援助内容の実施について項目毎に毎日のモニタリングで点検し、月毎にモニタリング実施記録票にその達成度について評価のまとめをしています。月例のカンファレンスでの検討を経てケア計画の見直しにつなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状態の変化がある時や認定更新の時など必要な時に見直していますが定期的な見直しはしていません。見直しにあたっては利用者の現在の状況、医師の意見、アセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録をもとに見直し、家族の了解を得ています。	○	介護計画については2年という介護認定更新期間の長さから考えて、少なくとも6ヶ月毎には見直し（継続含む）をすることが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	38	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人事業の多機能性を活かし居宅介護支援や病院との連携のもとで、相談業務、急な受診の場合や家族の都合がつかない場合の通院の支援をしています。病院との連携で、利用者の状態に必要な看護指導を受けています。地域のボランティアも多く受け入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望があれば以前からのかかりつけ医師（医療機関）で引き続き医療が受けられるようにするとともに、家族が通院に同行できない場合は職員が支援をしています。母体病院と連携し夜間や急変時の対応についての体制整備をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象になる利用者はいませんが、将来利用者が重度化したり終末期を迎えた場合のホームとしての対応方針を決め、家族と話し合いながらその準備をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。リビングで数人の利用者が楽しそうに会話をしたり、カレンダー作りをしている人、居室で雑巾を縫っている人、居室で好きな塗り絵の整理をしている人、家族と外出し買物に出かける人等々、それぞれのペースで過ごしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回の食事は食材業者から仕入れた食材を使って職員が調理しています。利用者が職員と一緒にメニューを選び、食材を買出しに行き、下ごしらえや調理をするという仕組みにはなっていません。また食事中、職員は入居者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っていますが、同じものではなく手持ちの弁当を食べています。利用者は配膳や下膳、食器洗いに活躍しています。	○	食事は利用者のホームでの生活の中で力の発揮や参加、人間関係作りの意味で重要な位置付けとなっています。毎日でなくても、メニュー選びからの一連の作業を利用者、職員と一緒にいき、一緒に味わい楽しい食事になるような支援が求められます。また職員は一日一食以上同じ場所で同じものを食べることが求められます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2回、ゆっくり寛いだ入浴ができています。	○	利用者が週3回、できるだけ希望の時間帯に寛いで入浴できるよう支援することが求められます。毎日入浴したいという利用者の希望がある場合は、毎日の入浴の支援が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	元気な利用者は毎朝の体操を楽しみ、会話を 楽しみ、カレンダー作りや塗り絵、書道をして います。また季節に合わせて大きな貼り絵 の創作をしたり、七夕飾りを作ったり、週刊 誌や新聞を読んだりして楽しんでます。多 くのボランティアを受入れ大正琴やよさこい 踊り、沖縄民謡、手話の歌遊びで楽しんで います。家事をしたり、ホームで使う雑巾を縫 ったり、朝早くから共同洗面所の掃除をし たり、率先して食事の下ごしらえもやしのひげ とりや食器洗いをする等、利用者が生き生き と生活を楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援している	毎週水曜日を外出の日と定め色々な相談と工 夫をしながら散歩や買物、外食を楽しんで います。季節毎の初詣や祭り、花見にも出か けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解し ており、鍵をかけないケアに取り組ん でいる	玄関ドア、エレベーター、エレベーターホー ルから各フロアに通じるドアのいずれにも 日中鍵はかかっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策のマニュアルを作成し、法人全体で消防署の協力を得て年2回の消防、避難訓練を行っています。また運営推進会議での報告や協力依頼など、近隣からの支援を求める働きかけをしています。非常用食料品と水の備蓄については特別な対応はありませんが冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成しておくことが望まれます。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量について記録をとっています。栄養バランスについては献立について食材業者の栄養士の支援を得ています。水分摂取量については摂取量が不足しがちな利用者がいないため記録をとっていません。高齢者は季節や体調によって水分不足が深刻になることがあります。水分摂取量についても記録をとることが望まれます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花、観葉植物、生け花が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは明るくて広い開放的なスペースになっています。二つの食卓は目的に応じて自由に配置換えしながら使い、傍らには複数のソファが置かれ寛げる居場所となっています。壁には季節感のある利用者の作品や行事予定が貼られ、書籍やレクリエーション道具も置かれていて、安らぎのある雰囲気となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームからベッドと大きくて機能的な収納ダンスを提供している居室には、利用者が机や椅子、飾り棚、装飾品、家族の写真、遺影、冷蔵庫や使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、希望者には畳や絨毯を敷く等して利用者が安心して過ごせる場所となっています。ただし、全体的にはまだ殺風景でただ寝るだけの部屋との印象があります。	○	利用者と家族の協力を得て居心地よく過ごせる居室にする工夫が求められます。